

お 知 ら せ

平成 28 年 1 月 27 日  
独立行政法人農林漁業信用基金  
林業管理室

## 林材業の業況動向調査（平成27年度下期）の結果について

当信用基金では、全国の林材業の短期的動向を把握し、林業信用保証制度の適切な運営に資することを目的として、昭和51年10月以降、上期（4月～9月）及び下期（10月～翌年3月）の状況を継続的に調査しています。

今回は、平成27年度下期の調査結果を別添のとおり取りまとめましたので、お知らせいたします。

お問い合わせ先  
林業管理室：久保田  
TEL:03-3294-5581  
FAX:03-3294-5595

林材業の業況動向調査結果の概要(要点)  
(平成27年度下期)

平成28年1月  
独立行政法人農林漁業信用基金

(調査概要)

- 独立行政法人農林漁業信用基金が、業務参考資料として、年2回実施。
- 今回は平成27年11月時点での下期(27年10月～28年3月)の現況・見通し、27年度上期(27年4月～27年9月)の実績を調査したもの。  
有効回答回収率は40.7%(有効回答企業215社)
- 詳細情報は当基金のHP(<http://www.jaffic.go.jp/>)に掲載予定。

(凡例)

- ・ DI : 動向指数(Diffusion Index)。プラス要因指数からマイナス要因指数を控除し算出
- ・ △●P : マイナス●ポイント
- ・ 前回(調査) : 平成27年7月に実施した本調査(平成27年度上期調査)

1 売上の見通し

売上の見通しDI(増加-減少)は△13Pとなった(前回は△25Pであり12P上昇)。

2 資金繰り等の見通し

- (1) 資金繰りの見通しDI(好転-悪化)は△15Pとなった(前回は△18Pであり3P上昇)。
- (2) 借入金調達難易度の見通しDI(容易-困難)は0Pとなった(前回は1Pであり1P下降)。
- (3) 借入金残高の見通しDI(減少-増加)は△12Pとなった(前回は△7Pであり5P下降)。
- (4) 短期借入金の金利の見通しDI(低下-上昇)は△3Pとなった(前回は△5Pであり2P上昇)。平均金利の実績は2.03%となった(前回より0.23%下降)。
- (5) 売上代金の回収状況及び仕入代金の決済状況については、
  - ① 売上代金の回収状況は、「全額現金」が上昇し、それ以外は横這いまたは下降した。
  - ② 受取手形のサイトの状況は、「3ヵ月未満」と「6ヵ月以上」の割合が上昇した以外は横這いまたは下降した。
  - ③ 仕入代金の決済状況は、「手形50%以下」が上昇し、それ以外は下降した。
  - ④ 支払手形のサイトの状況は、「3ヵ月未満」と「6ヵ月以上」が上昇し、それ以外は横這いまたは下降した。

3 設備投資の意向

- (1) 設備投資の見通しDI(実施-不実施)は△42Pとなった(前回は△24Pであり18P下降した)。27年度上期に設備投資を実施した企業の割合は29%であり、DIは見通しより18P少ない。
- (2) 設備投資の目的(上位3項目)は、「老朽化に伴う設備の更新」(51%)、「規模拡大のための増設」(18%)「コスト低減等の合理化」(14%)であった。

4 在庫量の見通し

- (1) 原木在庫量の見通しDI(過小-過大)は△12Pとなった(前回は△16Pであり4P上昇)。
- (2) 製品在庫量の見通しDI(過小-過大)は10Pとなった(前回は12Pであり2P下降)。

5 純利益の見通し

純利益の見通しDI(増加-減少)は△21Pとなった(前回は△32Pであり11P上昇)。  
地域別見通しDIは、「北海道」と「北陸」は前回調査に比べ下降、その他の地域では上昇し、全国平均では前回より11P上昇した。

6 木材価格の見通し

- (1) 原木価格の見通しDI(下落-上昇)は14Pとなった(前回は△5Pであり19P上昇)。
- (2) 製品価格の見通しDI(上昇-下落)は△7Pとなった(前回は△22Pであり15P上昇)。

7 当面する経営上の問題点

- (1) 経営上の問題点(上位3項目)は、「売上不振」(22%)、「販売価格の下落」(16%)、「原材料仕入れ原価上昇」(15%)であった。

8 今後の経営の見通し他

- (1) 今後の経営の見通しDI(楽-苦しい)は△27Pとなった(前回は△27Pであり不動)。
- (2) 今後の事業方針DI(拡大-縮小・転廃業)は13Pとなった(前回は12Pであり前回より1P上昇)。